

東京バッハ合唱団 月報

[第 686 号] 2019 年 8 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3-47604

Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 686

August 2019

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

合唱団創設のころの想いに重なる〈折々のことば〉

「君が今やりたいことを、まっすぐに人に伝えながら、
出来ないことは、みんなに手伝ってもらって、堂々と生きてゆきなさい。」(遠藤 滋)

大村 恵美子 (主宰者)

合唱団創立 57 周年記念祝会の 7 月 6 日。主宰者からの挨拶を一言、とマイクに向かわせられる予定の朝。私は、朝日新聞の朝刊を開いて、おどろいた。まだ、ご挨拶の内容をまとめていなかったのに、私が頭の中でぼんやり練っていた言葉が、朝刊 1 面隅の〈折々のことば〉の見出し 3 行に、ピタリと文章にされていたのだ。

これはまさに、1962 年 7 月 1 日、20 人の入団希望者を迎えて、バッハのカンタータ練習の第一声をあげるまでの、私自身の心境そのものだった。バッハ・カンタータの全曲に取り組んでみたいという意欲は、2 年間のフランス留学以前の高校生時代から芽生え、次第に高められてきていた。芸大の楽理科卒業後、重ねて作曲科に入り直していた私は、すでに結婚し、夫(森井眞)は、フランスの宗教改革者 J. カルヴァンの資料を集めに、独仏国境のフランス側の都市ストラスブールに、予定通り留学していた。私は J. S. バッハの研究にはドイツに、と思い定めていたので、東京に残ったが、その一人暮らしはあまりにも過酷だったので、9 か月後に、それを脱するのを主目的に、夫のもとに合流すべく渡欧した。その結果は、ドイツ本国と同じかそれ以上に、バッハのカンタータを頻繁に生活に取り入れていた、当時のストラスブール(シュヴァイツァー博士によるバッハ音楽再興の地)は、絶好の留学適地であることがわかり、その僥倖に感謝しながら、2 年間をすごしたのだった。日本からは、「早く帰国して、また合唱部のグループをつくってください」という、私の非常勤講師の任務先だった、都立三鷹高校卒業生たちの、ヤンヤの催促が続いていて、それが直接の引き金となり、私は 1962 年、帰国後間もなく、世田谷・桜上水の地に、合唱団を始めたのだった。

まったく何の予備知識もなく、いきなり歌い出したもので、それを、ドイツ・フランスで見て来たように、教会で演奏するのは、日本では全くリアルでないことを知っても、もう後の祭り。ただ練習だけ続けるとい

うわけにもゆかず、途方に暮れかかった矢先きに、日本基督教団出版部で、新しく発刊され始めた『礼拝と音楽』という雑誌の編集者の、名立たる先生方から、「経済的援助がないのは無理だから、後援会をつくりましょう」と、この弱輩の私に、申し出があったのだった。私はまだ、作曲科に籍を置く芸大の学生だったが、どなたかの推せんで、編集員のえらい先生方の中に、ひとり実務員として月 1 回の会議に、顔合わせをしていたのだ。この〈折々のことば〉の中にある、「出来ないことは、みんなに手伝ってもらって」というのを、私が気がつく前に、まず油絵で有名な田中忠雄先生の提唱で、服部幸三、向井潤吉、辻壮一、由木康という、著名な 5 人の先生方が発起人となって、後援会を実現させてくださった。あれよあれよと見るうちに次々と、発表の場は、狭小な教会の礼拝堂から都内の大ホールに移り、最初は無謀にも年 3 回の定期演奏会を続けはじめた。赤字になりながら、森井眞(前出。そのころは明治学院大学仏文科教授、後に同大学学長を 3 期務める)の夏・冬ボーナス全額で赤字埋め……。

そんな無鉄砲な始まりなのに、バッハのカンタータのおもしろさに忽ち惚れこんだ私たちは、いつ止めようかと気づかう人は誰もなく、この〈折々のことば〉の通り、「堂々と生きて」来てしまったのである。

最近、定期演奏会の聴衆アンケートの中で「宣伝がなさすぎるから、新聞・テレビなどに取りあげられるようにしてほしい」との要望が聞かれるようになった。まことにありがたい。

私の、この 7 月 6 日のごあいさつは、こんなところから出た短いものとなったが、私にとっても、ただ感謝・感謝の会となった。

[了]

折々のことば

鷺田 清一 1513

「君が今やりたいことを、まっすぐに人に伝えながら、出来ないことは、みんなに手伝ってもらって、堂々と生きてゆきなさい。」
遠藤 滋

「だって、君はひとりで勝手に何かをやってゆくんぞでできないだろ?」
幼時より脳性麻痺による障害をもつ養護学校教員は、やがて 24 時間要介護の身となり退職。介護経験のない若者たちに身を預けつつ、自室を「学校」に見立て彼らの悩みを傾ける。伊勢真一監督のドキュメンタリー映画「えんじ」(1999 年)から。

2019・7・6

月報 8 月号 CONTENTS

- ・講演会「バッハ音楽と西洋美術史、マリアを主題」…p.2
- ・バッハの「マリア賛歌」BWV243 (大村恵美子) …p.3
- ・演奏計画：2019 年後半～2020 年、メディア広告 … p.4

<創立 57 周年記念講演会>

バッハ音楽と西洋美術史、 聖母マリアを主題として

■ 『マリアの3大祝日とバッハ音楽』

講師：加藤 拓未氏（音楽学者、NHK-FM「古楽の楽しみ」案内役。東京バッハ合唱団団友）

■ 『聖母マリアの美術史』

講師：諸川 春樹氏（多摩美術大学教授、西洋美術史。東京バッハ合唱団団友・後援会員）



■ 加藤拓未氏：終始、ラジオでお馴染みのソフトな語り口で。

合唱団ではこれまでも、創立記念日（毎年7月1日）の前後にゲストをお招きして、時々にお話しをうかがうということを企画してきました。今年は、贅沢にも、音楽学・バッハ学がご専門の加藤拓未さんと西洋美術史の研究者・諸川春樹さんのお二人をお招きして、聖母マリアに関わる作品についてのお話しを、音楽・美術の両面から語っていただきました。

プロテスタント教会では、聖母マリアが取り上げられることが少ないので、意外に思われた方もいらっしゃるようです。加藤氏からは、J.S. バッハが所属したルター派教会でのマリアの3つの祝日の扱いについてと、その日のためのバッハ作品について説明をうかがい、曲の一部を聞かせていただきました。

美術史の分野では、圧倒的な存在感をもつカトリック教会の聖母にちなんだ名品の数々。諸川氏からは、その見どころ、象徴の意味等々について、スクリーン上の絵画を見ながら、楽しいお話しをたっぷり伺いました。ご覧のとおり（右下写真）、満席の盛況でした。



■ 諸川春樹氏：ユーモアを交え、つぎつぎと名画の謎解きを展開。（このページの写真は、いずれも団員・千葉光雄氏提供）

ご担当の皆さま

諸川 春樹

無事に記念会を終えることができ、ホッと一息というところでしょうか。教会内で講演するのは初めてでしたので、はたしてうまくいくかどうか、かなり心配しておりましたが、実際には杞憂であったことがすぐにわかりました。会場にいらした方々の反応がすばらしく、そのおかげでこちらも楽しく講演を進めることができました。これもすべて皆さまのご手配、また綿密なスケジュール管理のおかげです。ありがとうございました。

思えば半年前 [2018年12月22日、第117回定演“天使と羊飼いのクリスマス”] は、まだ白木先生(*)がご存命でいらして、この会堂の後方で一緒に合唱を楽しんでいたのです。そして帰りの道では「今日のバッハはよかった、よかった」と楽しそうに語っておられました。亡くなられたのはそれから1週間後のことです。

そのようなことを思い出しながら、西洋の宗教画の見方、というか、楽しみ方を皆さんにご紹介するとは、何と光栄なことだったでしょうか。これまでは単なる聴衆の一人でしたが、今回はほんの少し裏方を体験できました。そして何よりも合唱団の皆さんから温かく迎えていただき、とても嬉しく思っています。これからもどうぞよろしく願いいたします。取り急ぎ、御礼まで。

．．．
[*白木博也氏は、合唱団創設当初からの後援会員。長年、現在の筑波大付属駒場高校の美術教師を務められた。諸川春樹氏はその教え子のお一人で、美術鑑賞の手ほどきをお受けになった、とのこと：編集部]

終了報告

東京バッハ合唱団 創立 57 周年祝会

2019年7月6日（土）

- ①記念講演会（15：30～17：30、入場無料）
来聴者：62名（他に、講師2名、合唱団33名）
会場募金：19,988円
- ②合唱団支援バザー（14：30開場）
バザー売上：57,310円（7/6～7/13）
- ③懇親会（17：40～18：10）
公演後の会堂にて、お茶・ジュースとスナック（40名）。
懇親会終了後、駅前の中国酒家で2次会（30名）。



バッハの「マリアの賛歌」： 《マニフィカト》 BWV 243 ～マリア自身のことばと三位一体説との関係～

大村 恵美子

7月6日に荻窪教会で行なわれた講演会は、合唱団創立57周年祝会の一環として、バザー、懇親会とつづく盛りだくさんのプログラムの最初に設けられた、2人の講師方による興味つきない内容のお話でした。私は講演会最初の、加藤拓未講師のお話のあと、聴衆との質疑応答があり、そのときに、ふと思いついて発言してみた、いかにも中途半端な質問のことを、ここに書いてみます。

というのは、ひとつには、加藤先生は、キリスト教会とイエスの母マリアとの関係をお話と聖画を通して、55分の担当時間のうちに、きっちりと配分してお示しになったので、素晴らしいと感動しましたが、私も、聴衆を向こうにして表現する側に立つことのある人間なので、僭越ではありますけれども、次のことが気になったのです。

講師ご自身が、A4判で4ページのレジュメを聴衆に用意くださったので、とてもありがたかったのですが、マリアが自ら歌って、その神への気持ち・態度を残してくれたという「マリアの賛歌」と云われるものが、新約聖書のルカ福音書(1:46-56)にあります。その全文に、後に信者たちがつけ加えた歌(小栄唱)も補われて、カトリック教会の伝統的な《マ(グ)ニフィカト》となって存在している。

私たちの合唱団でも、J.S. バッハの《マニフィカト》 BWV 243 / BWV 243a を、これまでに何回か演奏してきました。その頃からすでに私は、小さなわだかまりを覚えていたのですが、それは、独唱といくつかの形の合唱とで、ルカ書にある「マリアの賛歌」全部を歌いつぎ、そのあとさらに、フィナーレの位置で、第12曲として、〈父と子と聖霊に栄光あれ。初めにあったように、今もいつも世々限りなく。アーメン〉と歌って終わるのです。

これはキリスト教会における演奏としては、もう当たり前、慣習化した終わり方だったので、私には、何やら余計な感じがするのです。第11曲の混声5部合唱〈私たちの先祖におっしゃったとおり、アブラハムとその子孫に対してとこしえに〉(ルカ 1:55)で終わらせたほうが、マリアの賛歌に徹していて、すっきりします。後世に生じた三位一体説の成立の歴史も、講演の中でも少し触れていただきましたが、いまだに賛否両論でもめることもあるそうですし、純朴な乙女マリアの歌の最後に、父・子・聖霊まで持ち出すのは場ちがい？ という私の気持ちを言ってしまうしました。

遠大なキリスト教の歴史と、同じく確固とした音楽史に掉さして、講師に当たってもセンナイところでは

が……。 「もっと内容をまとめてから質問してください」という司会者の注意はごもっともでした。ただ、新約聖書にある、以下の「マリアの賛歌」全文(下掲)を、あの時の聴衆の方々にさしあげておきたかったということは、たしかです。

* * *

「マリアの賛歌」とルカ福音書での前後、小栄唱

(丸付き数字は、バッハ作品 BWV 243 での曲番号)

「そこで、マリアは言った。(ルカ 1 章 46 節)

《マリアの賛歌》(ルカ 1 章 47 節～55 節)

- ①⁴⁷わたしの魂は主をあがめ、
- ②わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。
- ③⁴⁸身分の低い、この主のはしめにも目を留めてくださったからです。
- ④今から後、いつの世の人もわたしを幸いな者と言うでしょう、
- ⑤⁴⁹力ある方が、わたしに偉大なことをなさいましたから。その御名は尊く、
- ⑥⁵⁰その憐れみは代々に限りなく、主を畏れる者に及びます。
- ⑦⁵¹主はその腕で力を振り、思い上がる者を打ち散らし、
- ⑧⁵²権力ある者をその座から引き降ろし、身分の低い者を高く上げ、
- ⑨⁵³飢えた人を良い物で満たし、富める者を空腹のまま追い返されます。
- ⑩⁵⁴その僕イスラエルを受け入れて、憐れみをお忘れになりません、
- ⑪⁵⁵わたしたちの先祖におっしゃったとおり、アブラハムとその子孫に対してとこしえに。

(日本聖書協会・新共同訳)

——マリアは、三か月ほどエリサベトのところに滞在してから、自分の家に帰った。(ルカ 1 章 56 節)

《小栄唱》

- ⑫栄光は父と子と聖霊に。
初めのように今もいつも世々(よよ)に。アーメン
(日本のカトリック教会「栄唱」)
- ⑬父と子と聖霊との神に、
初めも、今も後も、栄光があるように。アーメン
(日本のプロテスタント教会「頌栄」)

「マリアの賛歌」ラテン語原詞(マニフィカト)

»Magnificat« Luk. 1, 46-55, Vulgata

- ①Magnificat anima mea Dominum,
- ②et exsultavit spiritus meus in Deo salutari meo,
- ③quia respexit humilitatem ancillae suae.
- Ecce enim ex hoc beatam me dicent ④omnes generationes,
- ⑤quia fecit mihi magna, qui potens est, et sanctum nomen eius,
- ⑥et misericordia eius in progenies et progenies timentibus eum.
- ⑦Fecit potentiam in brachio suo, dispersit superbos mente cordis sui;
- ⑧deposuit potentes de sede et exaltavit humiles;
- ⑨esurientes implevit bonis et divites dimisit inanes.
- ⑩Suscepit Israel puerum suum, recordatus misericordiae suae.
- ⑪sicut locutus est ad patres nostros, Abraham et semini eius in saecula.

»Gloria Patri«

- ⑫Gloria Patri, et Filio, et Spiritui Sancto.
- Sicut erat in principio, et nunc, et semper,
- et in saecula saeculorum. Amen.

演奏計画

2019 年後半～2020 年

■日本エキュメニカル協会創立 50 周年記念 第 3 回「講演と音楽の集い」【客演】

2019 年 11 月 4 日 [月/休日]

会場：東京カテドラル聖マリア大聖堂

主題：『聖なる教会』— 霊の多様な賜物による一致 —

◎入場無料（席上自由献金）

◎主催：日本エキュメニカル協会

<講演> 14:00 から

松山與志雄（日本エキュメニカル協会理事長）、藤井清邦（日本キリスト教団聖ヶ丘教会牧師）、新垣壬敏（カトリック聖歌作曲家）、申鉉錫（八街グレイス教会牧師）

<音楽> 15:30 から

—オルガン独奏—

松居直美（日本オルガニスト協会会長）、吉本真理（国際キリスト教団代々木教会牧師）

—合唱—

東京バッハ合唱団（日本語上演）・大村恵美子指揮、オルガン伴奏：田尻明葉

●合唱〈主を頌めまつれ〉BWV28-2（日本語）

●モテット〈恐るな われなれと共にあり〉BWV228（日本語）

●聖歌カノン〈Dona nobis Pacem 平和をわれらに〉（作曲者不詳、松尾茂春編曲）

■東京バッハ合唱団 クリスマス教会コンサート 2 部公演 [A]/[B]【主催】

2019 年 12 月 14 日 [土]

●カンタータ《主の愛を讃えよ なれら》BWV167（日本語）

●《クリスマス・オラトリオ》BWV248 後半より（日本語）

<演奏>

光野孝子（ソプラノ）、鳥海 寮（テノール）、コレギウム・アルモニア・スペリオール・ジャパン特別編成オーケストラ（管弦楽）、新妻由加（オルガン）、東京バッハ合唱団（合唱と斉唱）、大村恵美子（訳詞/指揮）

<会場>

[A]：日本キリスト教団荻窪教会、14:00 開演

[B]：日本キリスト教団三崎町教会、18:30 開演

◎主催/問い合わせ：東京バッハ合唱団

◎いずれも入場無料（各会場とも、2019 年 10 月 1 日より受付開始）

■特別演奏会（形態/規模未定）【主催】

2020 年、春～夏

●カンタータ《イエス 高き宝》BWV 113（新規楽譜）

●カンタータ《ただ主に依り頼み》BWV 93（50 曲選）

●カンタータ《イエス わが心を》BWV 78（50 曲選）

●カンタータ《待ち望みたる喜びの光》BWV 184（新規）

春から夏にかけて、都内の教会をお借りして 2 公演

ほどもを行い、夏の野尻湖合宿のフィナーレとして小布施公演、というアイデアも提案されています。詳細は検討・交渉中。

■第 119 回定期演奏会

2020 年、12 月予定

開演：14:00、会場：都内コンサートホール

●《クリスマス・オラトリオ》BWV 248 前半（第 1～3 部全曲）

●カンタータ《喜び 笑い あふれ》BWV 110

<演奏> いずれも、フル編成による全曲演奏を予定。

独唱者 4 名と東京カンタータ室内管弦楽団。

<会場> 決まり次第、詳細をお知らせします。

団員募集

あなたも日本語でバッハを歌ってみませんか？
資格や経験は問いません。上記公演に出演する合唱団員を募集します。

秋からの練習開始は、8/26（月）、8/31（土）。以後、毎週の土曜と月曜。来年の公演は年明けから新規の練習が始まります。

◎練習日/会場（どちらへの練習参加も自由です）

・土曜日＝15:30 - 17:30、日本キリスト教団荻窪教会（JR/地下鉄荻窪駅南口から徒歩 8 分、杉並区荻窪 4-2-10）

・月曜日＝18:30 - 20:30、目白聖公会（JR 目白駅下車、目白通り沿いを西へ徒歩 5 分、新宿区下落合 3-19-4）

◎会費……入団金 3000 円、団費 5000 円（月額）（児童・学生は団費無料、30 歳未満は半額です）

※ お問い合わせは、事務局あて

好評発売 CD/DVD/Blu-ray

5 月定演の録音録画が出来ました。

東京バッハ合唱団・第 118 回定期演奏会

“悩みのさなかにも 堅き望み”

府中の森芸術劇場ウィーンホール

2019 年 5 月 18 日

・ CD…2000 円 [2 枚組]

・ DVD…2500 円

・ Blu-ray…3300 円

事務局までご注文下さい。
郵便振替用紙を同封の上、お届けします。送料別。

